

第2学年国語科学習指導案

日 時 平成16年11月8日(火)第 校時
場 所 2年 組教室
児童数 名
授業者

1. 単元名 ようすを考えて読もう
教材名 お手紙

2. 指導の立場

(1) 単元〔教材〕について

学習指導要領の目標および内容

1. 目標

書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。

2. 内容

- ア やさしい読み物に興味を持ち、読むこと。
- イ 時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。
- ウ 場面の様子などについて、想像を広げながら読むこと。
- エ 語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて考えながら声に出して読むこと。

低学年で求められる読みの力は、書かれていることの大体をとらえることが基礎となっている。内容の大体をとらえるために、順序に従って内容を押さえたり、場面の様子に気付きながら読み取ったりすることが重要な学習となる。また、読む能力が確かなものになったとき、読む楽しさやおもしろさがさらに強く実感できるようになる。この時期に読書の「楽しさ」を知ることが、児童が読書に親しむ習慣の定着につながっていく。

本教材は、少しわがままでさみしがりのがまくんと、行動的で優しいかえるくんの会話が中心となってテンポよく話が展開されていく。それぞれの性格に特徴がある登場人物に、児童は興味を抱きながら物語の世界に引き込まれていくと考える。さらに、どうしてもがまくんを喜ばせたいという一途なかえるくんと、かえる君からの手紙に感激するがまくんから、友達どうしの関わりの温かさを感じ取ることができると思う。会話も多く挿絵も豊富にあるので、児童は、場面の様子や登場人物の気持ちなどの想像をより広げやすくなる。本単元では、会話文の言葉や挿絵の人物の表情に注目して、場面の様子やがまくん、かえるくんの心情を想像を広げながら読むことができると考える。また、登場人物の気持ちが表れるように音読することを通して、物語のおもしろさをより深く味わわせたい。

(2) 児童の実態

これまでに学習してきた「ふきのとう」や「スイミー」では、登場人物のペープサートに興味を示し、役割分担をして文章に従って動作化をすることにはたいへん意欲的であった。しかし、登場人物について、文に直接書いてないことを自分なりに想像したり、気持ちを考えたりすることにはやや苦手意識を持っている様子であった。そのことが影響してか、音読に関しても、どの場面でも、どの登場人物についても同じような読み方になりがちであった。気持ちを表現するためには、声の大きさや、読む速さなどに変化をつけるとよいということまでは感じているものの、決まった児童しか表現できないのが現状であった。そこで、本単元では、豊富な会話文や挿絵をもとに自分が考えたことを少しでも多く引き出し、話し合うことを通して想像をより広げさせたいと考える。そして、考えたことを音読に表現できるよう毎時間音読の時間を位置づけ、仲間同士で教え合うことで工夫をさせていきたいと思う。

(3) 指導について

今までの国語学習で音読をしてきたものの、やはり読み方に工夫して自分なりの音読をするまでには至らなかったという反省点がある。工夫して音読するということは、自分なりの想像や、考えを仲間に伝えるひとつの表現であると考えられる。そこで、本単元では、挿絵や会話文から場面の様子や登場人物の

思いを読み取る。さらに、登場人物の気持ちを聞いている人に伝えるために、声の大きさや高低、読む速さをどうすればいいのかを仲間同士で教え合うことで、音読する力を高めていきたいと思う。

(4) 研究主題に関わって

研究主題「生きてはたらく言語能力の育成～自分の考えを持ち自分の言葉で伝える子どもを求めて」

自分の考えを持つための手だてとして

気持ちが分かるところにサイドラインを引く。

想像を広げていくことが読みのめあてになっているが、いきなり自分勝手に想像するのではなくて、やはり叙述に従って登場人物の気持ちを考えていくことを定着させたい。そこで気持ちが分かるところにサイドラインを引く時間を位置づけた。ラインを引いた部分を元に話し合いの場で語らせていきたい。低学年からでも読みの学習の進め方、学び方を身につけさせていくことが重要だと考える。

挿絵を活用する。

低学年では、文章だけから考えを持つことには抵抗感がある。そこで登場人物の気持ちが分かる情報がたくさん含まれている挿絵を有効に活用していくことで、文からはなかなか読み取れないことでも、分かりやすい挿絵から感じ取らせ考えを持たせていきたいと考える。

自分の言葉で伝え合うための手だて

音読練習にグループ学習を位置づける。

グループ学習にすることによって

- ・全員が自分なりの音読を仲間に聞いてもらえる。
- ・お互いに見合うことで仲間のよいところを見つけて交流する。

といった効果を上げることができると考える。ここでのグループは、4人編成で、二人で役割分担をして会話読みをし、残りの二人は聞き手となる。役の児童は気持ちが伝わるように聞き手を意識して工夫して音読し、聞き手はどんなところがよかったかを交流する。まずは、話しやすいグループ内で音読について交流し、そのことを全体に広げていくことができればと考える。

3. 単元の目標

挿し絵や会話文から場面の様子や登場人物の気持ちを読み取り、聞き手によく伝わるように音読する。(読む・ウ)

初めてのお手紙をもらって感動しているがまくんになりきって、かえるくん喜んでもらえるお手紙を書く。(書く・ア)

かえるくんとがまくんの他のお話にも興味を持ち、それらのお話も楽しんで読む。(読む・ア)

4. 単元の評価規準

ア 国語への 関心・意欲・態度	イ 書く力	ウ 読む力	エ 言語についての 知識・理解・技能
・登場人物の気持ちの読み取りや、音読練習に意欲的に取り組んでいる。	・がまくんになりきってかえるくんに伝えたいことを考えて手紙を書いている。	・挿絵や会話文から登場人物の気持ちを読み取っている。 ・気持ちが伝わるように語や文のまとまりや声の大きさや高さ、読む速さなどに注意して読んでいる。	・敬体で書かれた文章などの文体を意識している。

5. 単元の5つの言語意識

相手意識	目的意識	場面・状況意識	方法意識	評価意識
・クラスの仲間	・「お手紙」の紙人形劇を楽しむ。	・紙人形劇の発表会を開く。	・グループで担当場面を決めて行う。	・発表会後にお互いによかったところを手紙に書く。

6. 単元指導計画〔全13時間〕

次	時	ねらい	学習活動	評価規準・評価方法	指導・援助
一	1	・「お手紙」の作品に興味を持ち、学習の見通しを持つことができる。	・お手紙について今までの経験から話し合う。 ・「お手紙」の範読を聞き感想をまとめる。	・読んだ感想を話したり、まとめて書いている。 ・ノートや発言	・登場人物を確認し、おもしろいと思ったところなど視点を持たせる。
	2	・「お手紙」の話の筋をとらえることができる。	・挿絵を手がかりに場面の移り変わりをとらえ場面分けをする。 ・がまくん、かえるくんの会話にシールを貼る。	・挿し絵から場面の様子の違いを見つけている。 ・発言	・十枚の挿し絵を使いとらえやすくする。 ・紙人形劇の発表会を行う目標を決め音読の意欲を高める。
	3	・悲しい気分でお手紙を待つがまくんの気持ちを挿絵や会話文から読み取り、気持ちが伝わるように声の強弱や高低を意識して音読することができる。	・第一場面を音読する。 ・がまくんの気持ちが分かる場所に線を引き、書き込みをする。 ・なぜ悲しい気持ちなのかを考える。 ・音読練習をする。	・挿絵や会話文からがまくんの悲しい気持ちを読み取って声の強弱や高低を意識して音読している。 ・ラインの箇所や発言、音読の様子	・挿し絵のがまくんの顔の表情に注目させる。

	4	<ul style="list-style-type: none"> ・急いで帰ってがまくんへの手紙を書くかえるくんの気持ちを読み取り，気持ちが伝わるように声の強弱や高低，読む速さを意識して音読することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第二場面を音読する。 ・かえる君が急いでいることが分かる部分に線を引き，書き込みをする。 ・音読練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かえるくんが急いでいる部分からがまくんを喜ばせたいという気持ちを読み取って声の強弱や高低，読む速さを意識して音読している。 ・ラインの箇所や発言，音読の様子 	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ急いでいるのかを考えさせる。
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・手紙についてやりとりする二人の気持ちを挿絵や会話文から読み取り，気持ちが伝わるように声の強弱や高低，読む速さを意識して音読することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第三場面を音読する。 ・気持ちが分かるところに線を引き，どんな気持ちか考える。 ・音読練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちの違いを表現しながら声の強弱や高低，読む速さを意識して音読している。 ・ライン箇所や発言，音読の様子 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返されている言葉に注目させる。
	6 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・かえるくんから手紙が来ることやその内容を知って，しあわせになっていくがまくんの気持ちや，がまくんが喜ぶ姿を見て自分もしあわせになっていくかえるくんの気持ちを，挿絵や会話文から読み取り，気持ちが伝わるように声の強弱，高低，速さを意識して音読することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第四場面の音読をする ・気持ちが分かるところに線を引く。 ・「ああ」といったときの気持ちを考える。 ・音読練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵や会話文からがまくん，かえるくんの気持ちの変化を読み取り，声の強弱や高低，読む速さを意識して音読している。 ・ラインの箇所や発言，音読の様子 	<ul style="list-style-type: none"> ・1場面の「ああ」との違いに気付かせる。
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・二人でお手紙を持つときの気持ちを読み取り，その気持ちが伝わるように読む速さを意識して考えて音読することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第五場面を音読する。 ・どんな気持ちでお手紙を持っているのか考える。 ・がまくんになってかえるくん宛に手紙を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・がまくんのしあわせな気持ちを想像し，がまくんになりきってかえるくんに手紙を書いている。 ・ラインの箇所や発言，音読の様子，手紙の内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの学習振り返れるようにする。
3	8 9	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会の準備をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割を決める。 ・必要なものを準備をする。 ・音読の練習をする ・ペープサートの動かし方を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで準備や音読練習をしている。 ・取り組みの姿勢，音読の様子 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達にアドバイスできるようなポイントを示す。
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの音読練習を生かして発表会をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しみながら発表会に取り組んでいる。 ・練習したことを生かして音読している。 ・取り組みの姿勢，音読の様子 	<ul style="list-style-type: none"> ・自信を持って発表できるよう励ます。

11	・友達のよいところを見つけ、手紙に書いて伝えることができる。	・紙人形劇発表会を振り返る。 ・自分が見つけた友達のよかったところを手紙にして書く。	・友達の良さを見つけ、喜んでもらえることを考えて書いている。 ・手紙の内容	・発表の様子が浮かぶように写真を用意しておく。
12 13	・本のおもしろさが伝わるように紹介カードを書くことができる。	・アーノルド・ローベルの他の作品を読む。 ・好きな作品を選び紹介カードを書く。	・他の作品と比べたりして楽しみながら作品を読んでいる。 ・好きな作品の理由も書いている ・カードの内容	・ローベルコーナーを作りいつでも読めるようにしておく。

7. 本時の目標

かえるくんから手紙がくることやその内容を知ってしあわせになっていくがまくんの気持ちや、がまくんが喜ぶ姿を見て自分もしあわせになっていくかえるくんの気持ちを、挿絵や会話文から読み取り、気持ちが伝わるように声の強弱や高低、読む速さを意識して音読することができる。

8. 本時の評価規準

挿絵や会話文から、がまくん、かえるくんの心情の変化を読み取り、二人の気持ちが伝わるように声の強弱や高低、読む速さを意識して音読している。